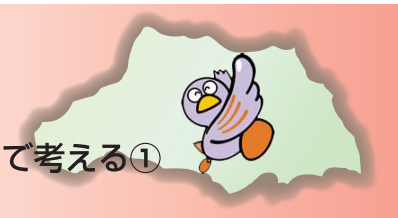




千田 寛彦 with 歴史ロマン
歴史ロマンウォーク・埼玉通信

地名は謎だらけ 2021 年・「コロナ禍」の中で考える①



久々の「地名にまつわる話」。私は昨年春からもっぱら近場のウォーキングで様々な「新発見」に挑んでいますが、やはり歩く場所の「地名」への関心は消えません。今回は、私の出身地・岩手県の生んだ詩人・童話作家の宮沢賢治（1896～1933）が生前に出版した唯一の詩集『春と修羅（第一集）』（童話の出版も『注文の多い料理店』だけでした）にある詩・「原体剣舞連 memorial sketch modified」の冒頭の一節から考えをめぐらせます。故郷は遠きにありて・・・というわけではないのですが。

dah-dah-dah-dah-dah-sko-dah-dah

こよい異装のげん月のした

鶏（とり）の黒尾を頭巾にかざり

片刃の太刀をひらめかす

原体（はらたい）村の舞手（おどりこ）たちよ

.....

全部で 50 行以上の長い詩ですが、岩手県に 30 近くの「流派」が伝わる民俗芸能である「鬼剣舞」（おにけんばい）の詩です。「原体（ハラタイ）村」は、現奥州市江刺区田原にあります。「ハラタイ」はアイヌ語由来の言葉だと考えられます。hara-tay = 広い・林（森）あるいは斜面。宮古市には盛岡と宮古を結ぶ JR 山田線の駅名として知られる「腹帯」があります。両者とも漢字表記は本来の意味を表してはいません。さらに、青森県から秋田県にかけて多く見られる「〇〇タイ」という地名。漢字表記も台や平や代以外に「岱」の字が使われるのが特徴です。ただし用字は恣意的なので、岱を使う意味は明確にできません。

原体村のある奥州市の江刺（エサシ）も、アイヌ語由来の地名の可能性があります。「エサウシ」が訛って「エサシ」になったと解釈するわけです。e（頭を）・sa（前／浜）・usi（につけている）・i（者）、つまり岬のこと。北海道の江差や枝幸地名がそれにあたります。旧河道の実証は柵に上げて北上川の蛇行を考えに入れ、地名の原点は地勢を表す地点名にあるとすれば、海に面した岬でなくても岩手県内陸部の江差も「川に突き出たところ」という解釈です。

（知里真氏保、山田秀三氏ほか）。

さて、ある地名を「アイヌ語由来の地名」とみなすにはどんな条件が必要でしょうか。

①北海道と本土のそれぞれに、同じかほぼ同じ地名が数カ所以上存在すること。

②日本語では、まず解釈がつかないこと。③逆に、アイヌ語だと、かなり容易に意味をつかめること。

④その地名が付いた場所の地形または地物などの特徴が、先にあてはめてみたアイヌ語の意味に合致すること（最重要点）。『アイヌ語地名の南限を探る』筒井功 2020

私はそれに加えて、つぎの二点が必要不可欠ではないかと考えています。すくなくともその考察なしには「異族間の交流」の実態にまで「地名の研究」の視野が届かないままであるということです。とても難しいことですが・・・。

a. その日本語とアイヌ語の使用された時期が重なることを証明すること

b. 両言語の使用者がどんな関係の中でお互いに地名を認め合い使用するに至ったのか想定すること

これらのことは、私も追求してきた古代朝鮮語由来の地名についても言える事です。

奥州市は、旧水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村。それぞれ歴史上有名な地域名ですね。水沢区にある「姉体（アネタイ）」もアイヌ語で解釈すれば「ane（細長い）・tay（森）」。

水沢から「盛（さかり）街道」という旧道が、三陸沿岸の良港・大船渡まで続いています。今回は、盛街道沿いの「地名は謎だらけ旅」を続けていきたいと思います。（つづく・千田）

2021. 5. 10（月）

おにけんばい

鬼剣舞 そのものも、その発生や伝承の歴史を考えると、大いに想像を掻き立てられるテーマです。奥州市の北に隣接する北上市には、「市立鬼の館」「日本現代詩歌文学館」というユニークな施設があります。

宮沢賢治

『春と修羅』^{はらたいけんばいれん} 原体剣舞連

(mental sketch modified)

dah-dah-dah-dah-dah-sko-dah-dah

こんや異装〔いさう〕のげん月のした
鶏〔とり〕の黒尾を頭巾〔づきん〕にかざり
片刃〔かたは〕の太刀をひらめかす
原体〔はらたい〕村の舞手〔おどりこ〕たちよ
鵝〔とき〕いろのはるの樹液〔じゅえき〕を
アルペン農の辛酸〔しんさん〕に投げ
生〔せい〕しのめの草いろの火を
高原の風とひかりにさゝげ
菩提樹〔まだ〕皮〔かわ〕と縄とをまとふ
気圏の戦士わが朋〔とも〕たちよ
青らみわたるこゝろをふかみ
櫓と掬〔ぶな〕とのうれひをあつめ
蛇紋山地〔じゃもんさんち〕に篝〔かざり〕をかかげ
ひのきの髪をうちゆすり
まるめろの匂のそらに
あたらしい星雲を燃せ

dah-dah-sko-dah-dah

肌膚〔きふ〕を腐植と土にけづらせ
筋骨はつめたい炭酸に粗〔あら〕び
月月〔つきづき〕に日光と風とを焦慮し
敬虔に年を累〔かさ〕ねた師父〔しふ〕たちよ
こんや銀河と森とのまつり
准〔じゅん〕平原の天末線〔てんまつせん〕に
さらにも強く鼓を鳴らし
うす月の雲をどよませ

Ho!Ho!Ho!

むかし達谷〔たつた〕の悪路王〔あくろわう〕
まっくらくらの二里の洞
わたるは夢と黑夜神〔こくやじん〕
首は刻まれ漬けられ

アンドロメダもかざりにゆすれ

青い仮面〔めん〕このこけおどし
太刀を浴びてはいっぶかぶ
夜風の底の蜘蛛〔くも〕おどり
胃袋はいてぎったぎた

dah-dah-dah-dah-dah-sko-dah-dah

さらにたたく刃〔やいば〕を合〔あ〕わせ
霹靂〔へきれき〕の青火をくだし
四方〔しほう〕の夜〔よる〕の鬼神〔きじん〕をまねき
樹液〔じゅえき〕もふるふこの夜〔よ〕さひとよ
赤ひたたれを地にひるがへし
電雲〔ひやううん〕と風とをまつれ

dah-dah-dah-dahh

夜風〔よかぜ〕とどろきひのきはみだれ
月は射〔あ〕そそぐ銀の矢並
打つも果〔は〕てるも火花のいのち
太刀の軋〔きし〕りの消えぬひま

dah-dah-dah-dah-dah-sko-dah-dah

太刀は稲妻〔いなづま〕萱穂〔かやほ〕のさやぎ
獅子の星座〔せいざ〕に散る火の雨の
消えてあとなない天〔あま〕のがはら
打つも果てるもひとつのいのち

dah-dah-dah-dah-dah-sko-dah-dah



岩手県奥州市江刺原体地区に古くから伝わる民俗芸能の鬼剣舞